

## 【Journal of CLINICAL REHABILITATION に論文が掲載されました】

掲載された（総説）論文ですが、リハビリテーション医療における安全管理の一工夫 II. 回復期リハビリテーション病院における安全管理 1「転倒・転落の予防策と発生後の対応」、Journal of CLINICAL REHABILITATION 32 巻 10 号、P1011-1015、2023、です。

岩砂病院・岩砂マタニティや介護本部には、それぞれに安全対策委員会が設置されており、患者さんや利用者さんの安全を確保するための事故防止対策を行っています。その中でも転倒・転落については、その発生をゼロにすることは現実的にはほぼ不可能であり、非常に大きな課題です。

今回は、雑誌の編集者より回復期リハビリテーション病棟での転倒・転落対策についての原稿依頼がありましたので、これまでの反省も含めて当院の取り組みを少し紹介しながらポイントをまとめました。

### 「転倒・転落の予防策と発生後の対応」

- ✓ 回復期リハビリテーション病棟における転倒・転落の特徴
- ✓ 転倒・転落対策のデメリット
- ✓ 転倒・転落の予防策としてのヒヤリハット報告
- ✓ 転倒・転落後の診断と症状観察の重要性
- ✓ 大腿骨近位部骨折の診断について
- ✓ 頭部打撲後の経過観察について

これまでに転倒・転落によってケガをされたり痛い思いをされた方は多数いらして、とても数え切れません。全職員が協力して、転倒・転落が 1 件でも減るようにしっかり取り組んでいきたいと思えます。

（リハビリテーション科部長 森 憲司）

Journal of

**C**  
**R**

# CLINICAL REHABILITATION

臨床リハ Vol.32 No.10

最適な予防法を導くために必要な多職種の視点

9

2023 Sep

特集

## 脊髄損傷者の褥瘡予防

—リハ医が積極的に関与するために



新連載

地域リハビリテーションの現状と今後

連載

リハビリテーション治療中のリスクに備える医療機器管理

<https://www.ishiyaku.co.jp>

医歯薬出版株式会社



## II. 回復期リハビリテーション病院における安全管理

## 1

## 転倒・転落の予防策と発生後の対応

森 憲司 藤岡昌之

岩砂病院・岩砂マタニティ リハビリテーション科

## Keyword

転倒・転落 デメリット ヒヤリハット 大腿骨近位部骨折 頭部打撲

## はじめに

回復期リハビリテーション病院においてもさまざまな転倒・転落対策が講じられているが、どの施設においても転倒・転落の発生をゼロにすることは実際には不可能であると考えられる。また転倒・転落対策を行うことによるメリットはいうまでもないが、対策によるデメリットがあることも知られており、これらを総合的に考慮した対応が必要になる。また転倒・転落の発生を減らすための予防策が最も重要ではあるが、発生そのものをゼロにできないかぎり発生後の対応も同じように重要である。本稿では回復期リハビリテーション病棟における転倒・転落の特徴、対策のデメリット、予防策としてのヒヤリハット報告、発生後の対応における診断と経過観察の重要性等、当院での工夫を含めた対策をいくつか紹介する。

## 回復期リハビリテーション病棟における転倒・転落の特徴

一般社団法人 回復期リハビリテーション協会の全国調査<sup>1)</sup>では、回復期リハビリテーション病棟における転倒・転落は入院患者の16.0%に認められている。疾患別では脳血管疾患で20.9%、整形外科疾患で11.6%と脳血管疾患に多い傾向がある。転倒・転落のレベルは「患者への実害はなかった」が43.7%、「処置や治療は行われなかった」が

表1 回復期リハビリテーション病棟における転倒・転落の特徴

- ・発生時期は入院早期に多い
- ・発生時間帯は6～9時に多い
- ・発生場所は1.病棟、2.トイレが多い
- ・行動理由は1.排泄関係、2.物を取るが多い
- ・発生時の動作は1.移乗動作、2.起立動作

43.7%とその多くは軽微な外傷である。しかし「簡単な処置や治療を要した」が8.6%、「濃厚な処置や治療を要した」が4.0%と治療が必要となるケースもある。

転倒・転落がいつどのような状況で発生しているかを知ることは、対策を講じるうえでの基本情報となる。報告によると<sup>2,3)</sup>転倒が発生しやすいタイミングは、病棟に入院後1週間以内が最も多い。発生時間帯は6～9時が1番多く、次に18～21時である。発生場所は病室が1番多く、次にトイレである。きっかけとなった行動の理由は排泄関係が1番多く、次に物を取ろうとしたことである。発生時の動作は移乗中が1番多く、次に起立中である(表1)。つまり入院後の比較的早期の起床後と就寝前の排泄において、トイレに行くための病室での移乗のタイミングで多く発生していることがわかる。もちろん、さまざまな状況において転倒・転落は発生するが、重要なことは患者の心理や行動を予想して対応する姿勢である。